

地方都市における魅力提示手法についての基礎的研究－呉市において－

呉高専 正員○市坪 誠 広島国際大学 正員 長町三生 呉大学 正員 今田寛典
呉高専 正員 山口隆司 呉高専専攻科 学員 山田 宏 竹中工務店 溝上裕二

1. はじめに

近年、各地方都市において良好な都市環境の保全・創出を目的とした、地域住民と行政との共同によるまちづくりが活発となっている。1992年の都市計画法改正による各市町村の都市計画マスタープラン策定などにより、これらまちづくりは今後さらに活性化すると考えられる。つまり、豊かで活気のある都市とするには、地域住民の参加を踏まえた地域特性の理解が必要となり、住民自らがこれを魅力として認知することが重要となる。

そこで本研究は、住民参加を踏まえた都市の魅力提示手法の基礎的資料を得るため、地方中核都市である呉市（写真－1）において魅力度の発見、その視覚化および発信手法の検討を行った。つまり、住民による魅力発見を具体化しこれを報告するものである。

2. 研究概要

魅力発信ツール作成までの本研究フローを図－1に示した。対象となる呉市（人口約 20 万人）は、広島県西部の瀬戸内海沿岸域にあり、かつては日本を代表する軍港として発展を遂げた街である。その呉市の魅力を創出・発信するための資料を得るため、呉市在住の高齢者（「呉史談会」会員 14 名）を対象にワークショップを行った。今回用いたワークショップ手法は、建築課題の発見手法であるプロブレム・シーキングを適用することにより、住民のアイデア・意見・要望を集約した。抽出した情報はマップにより面的に可視化を行い、魅力発信ツールとしてパンフレットを作成した。

3. 結果および考察

3. 1 ワークショップによる魅力発見

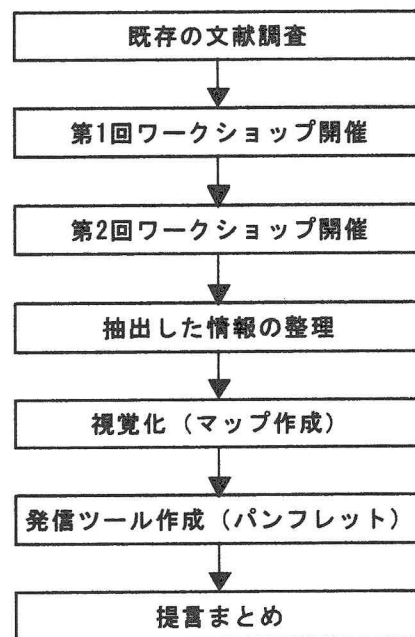
ワークショップでは、参加者による呉市の魅力発見のために、都市におけるまちづくりのゴール、魅力創出のアイデアなどについて議論を行った。紙面の都合上、その結果のみを表－1に示した。これより、呉市のまちづくりのゴールは3つ（平和、高齢者および世代間交流）に集約された。ゴールそれぞれを表現する場所（地物）が把握され、発信すべき魅力が具体化された。

3. 2 取得情報の視覚化

呉市の魅力を広く発信するため上記結果の地図化を行った（図－2）。まず、ワークショップにより取得された魅力情報に位置情報を記載するため、呉市中心部のマップ（パンフレット裏右下部）の作成を行った。ゴールとなる「平和が実感できる街」、「高齢者に優しい街」、「世代間の交流ができる街」において、それぞれ3つのマップを作成した。マップは呉市の地形や位置情報を分かりやすくするため鳥瞰図形式とした。なお、点在する魅力を敢えて線形誘導せず2時間程度で自由に散策できるブロックとして表現した。



写真－1 呉市中心部遠景



図－1 研究手順のフロー

表-1 ワークショップの結果

	まちづくりのゴール		
	平和が実感できる街	高齢者に優しい街	世代間の交流ができる街
テーマ に対応 する場 所	灰ヶ峰	二河峽	本庄水源地
	上・下井手散歩道	二河峽公園	二河峽
	歴史の見える丘	呉市中央図書館	稜威池の碑
	屋台通り	中央公園	大蔵神社
	亀山神社	大蔵神社	美術館通り
	鯛之宮	入船山	乙女櫓
	大蔵神社	屋台通り	鯛之宮
	殉国の塔	れんが通り	第六号潜水艇殉難慰霊碑

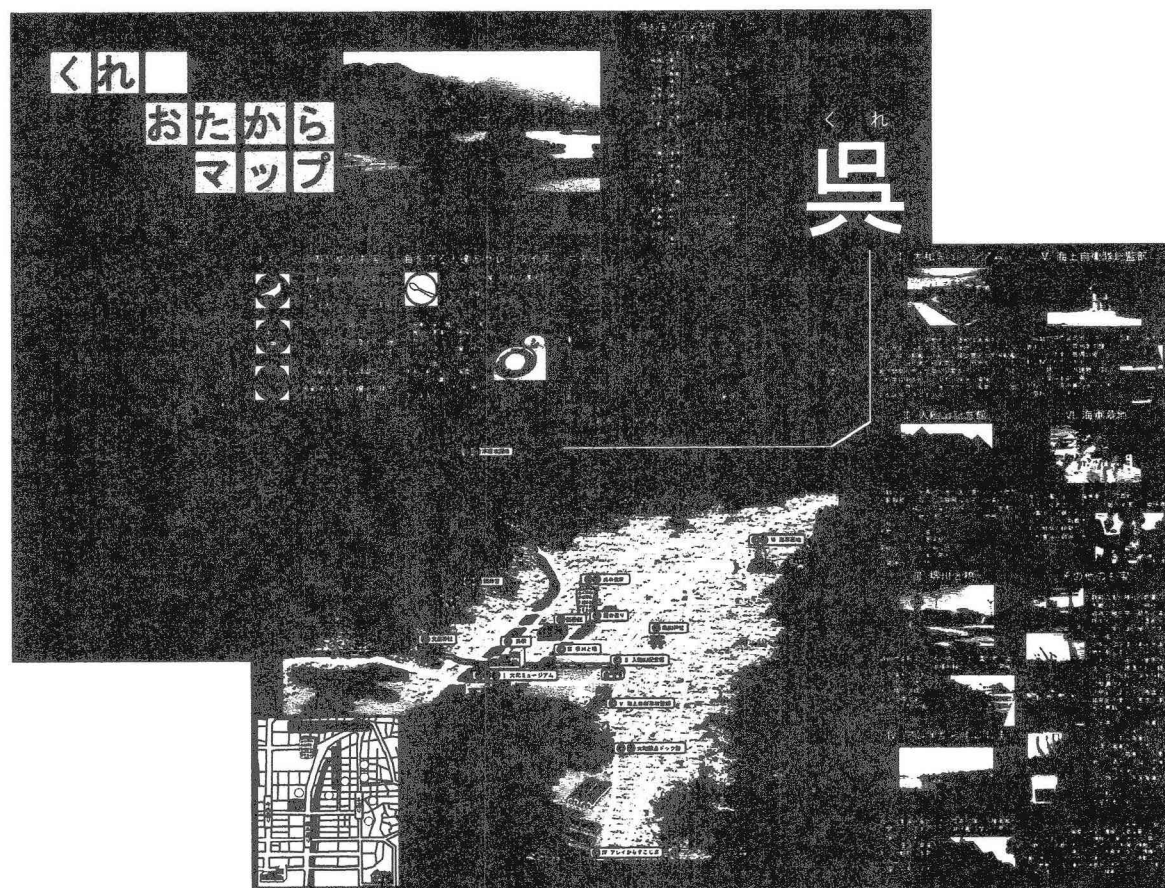


図-2 呉市の魅力パンフレット（左・表 右・裏）

続いて、魅力を外部へ発信するツールとして、これらを取りまとめるパンフレットの作成を行った。パンフレットは、多くの人々に配布し活用してもらうために、小さく折り畳める携帯型とした。内容として、ゴールに対する具体的な地物を写真と説明文で掲載している。なお、訪れた人が呉市をより身近とするため食の魅力も併せて掲載した。

以上の結果、住民参加によるパンフレットの作成を行い、包括的な観点から呉市の魅力を紹介することが可能となった。なお、この内容はウェブでも閲覧可能なようにHP形式でシステムを構築した。

4. まとめ

本研究で得られた結果を以下に示した。

- 1) 住民参加から、呉市の魅力発信のための3つのゴールとこれを表現する場所（魅力）を得た。
- 2) 魅力を発信するために2時間程度で散策できる自由度の高い鳥瞰図として表現した。
- 3) 上記結果より、まちづくりのゴール、魅力（位置、写真、説明文）を掲載したパンフレットを作成した。